

# 緑ネット通信 No.61

緑のネットワーク・まつど

代 表：藤田 隆  
 年会費：1000 円  
 口座番号：00170-9-696174  
 連絡先：高橋盛男 090- 2935- 9444

都市の緑を残すには、緑を見守り育む人のネットワークが不可欠です。私たちの活動の目的は「みどり」、特に樹木の保護・保全を願う人やグループと連携し、その輪を広げ、豊かな生態系を保つ森を次世代に伝えることです。

## 国土交通大臣功労賞を受賞

### 再発見ツアーで みどりが好きな人を増やしたい！

藤田 隆



本郷谷市長へ報告(写真右から高橋副代表、藤田代表)



松戸市内の駅から半日で歩けるように考えると、コースは限られたものになります。参加者に「同じコースを歩くのは飽きませんか」と尋ねられました。「同じコースでも、季節が異なると出会う生きものが違いますよ」と答えたのを覚えています。

ツアーを催すたびに、顔ぶれの違う参加者からお話を聞くことも多く、次のツアーのヒントになっています。

3年前、「松戸の秘境を訪ねる」と募集したところ、参加者が239人集まり、大慌てしました。東松戸駅に集合して、みなみの森と石みやの森をつないで歩くコースでした。みどり豊かなみなみの森の風景が眺められる絶好のスポットにご案内すると、参加者から「松戸にもこんなところがあるのね」という声が聞かれました。みなみの森から石みやの森に抜ける樹林帯では「軽井沢みたい」と嬉しそうにお話している皆さんの声を耳にすると「松戸の秘境」にしてよかったと思いました。

18年の間に松戸市内のみどり（里やまボランティアの活動する森、公園、農地や社寺林）を繋いで歩いたコースでたくさんの「再発見」をしてきました。歩いた後に感想を聞くと、みどりが好きで参加したという方が多く、参加者のアンケートからは松戸のみどりを長く残して欲しいと返ってきます。

都市部で樹林地を残していくことは大変難しいことですが、これからのツアーを通じて緑を大切に思う人の輪をひろげて行きたいと思います。



ツアーで訪れたみなみの森でお話を聞く

2018年5月26日（土）滋賀県立長浜ドームで開かれた第29回全国「みどりの愛護」のつどいで、「緑のネットワーク・まつど」はその功績が認められ、国土交通大臣功労賞を受賞し、感謝状をいただきました。

本郷谷松戸市長への報告は6月28日、第9期松戸市緑推進委員会の中で行いました。

会員をはじめ、松戸市役所、里やま活動団体の皆さん、関係の皆さんに支えられて賞をいただいたのだと思っています。感謝の念に堪えません。

会の発足は2000年4月。今年で19年目を迎えます。樹林地を守るには、まず現状を見て知ること、と2003年から「残したい松戸の樹林・観察学習会」をスタートしました。第1回目は浅間神社、矢切の斜面林を、第2回目は千駄堀を、第3回目は関さんの森を訪ねています。それから15年、みどりと花の課の後援を頂き名前を「松戸のみどり再発見ツアー」として続き、7月のツアーで通算61回目となりました。

このツアーは広く市民に呼びかけ、市内に残された樹林地を訪ねて歩くもので、都市部に残された樹林地の厳しい現状を知ったり、樹林地で楽しいひとときを過ごし、みどりの良さを再発見したり、保全に汗を流すボランティア活動を紹介したり、ふりかえりでは身近な樹林地の大切さを考えたりします。

# ステキだね！ 松戸の里やま

松戸の里やまでは 4 月に実施されたオープンフォレストの後も、地権者さんのご理解とボランティアの頑張りと行政の協力によって、多くの市民が自然に親しむステキな体験をしました。また、整備活動も地道に続けられています。

年中さん年長さん各 100 人が森に  
やって来た (5 月しんやまの森)



STG の森でヨガと森へのお礼の整備 (5 月秋山の森)



5 月フクロウの巣立ち



何を見つけたのかな? (6 月ハヶ崎の森)



植栽ゾーンの花  
(小浜屋敷の森)



子どもとまつどの自然体験教室 (6 月みなみの森)



恒例となった園児の訪問 (6 月紙敷石みやの森)

今年もヤマユリ鑑賞会  
実施 (芋の作の森)



高原のようにウグイスの声が  
ひびく (立切の森・三吉の森)



安全講習会 (6 月甚左衛門の森にて)

先生を招いて「虫ハカセになろう」今年も開催  
(7 月根木内歴史公園)



ちびっ子たちも虫と触れ合う (7 月溜ノ上の森)





読書ボランティアの方へ  
七夕飾り用の竹採取協力  
(6月野うさぎの森)

学童の子どもたちに竹ぼっくり作り指導(8月)



この他にも紹介しきれない  
たくさんの行事や作業  
が行われています。



猛暑でも道路掃除(ホダシの森)



ステップアップ講座  
チエンソー安全講習  
7月囲いやまの森

「Let's 体験」で気持ちのよい汗をかいた若者たちと(8月関さんの森)



樹液に来たカブトムシや  
ルリタテハ(三吉の森)



新しい会もいよいよ活動がは  
じまった(金ヶ作野中の森)

ドンちゃん・グリちゃんの自然展で「竹の水鉄砲作り」  
(8月里やまQ)



ボランティア作業体験後の流しそうめん体験(8月三吉の森)

## みどり再発見ツアー報告

# 上本郷～北松戸に残る斜面林や湧水をめぐる

川上将夫



宮の下湧水

7月8日の朝、未明まで降り続いていた雨が上がり、24名の方が上本郷駅に集まった。まず駅改札から最初の訪問地 風早神社へ誘導し、そこで挨拶・出発前の説明等を行った。とにかく蒸し暑いので「水分補給を」と繰り返し、次の宮ノ下湧水へ向かう。市内に残る数少ない湧水で斜面林に覆われていることもあり、少しひんやりとして気持ちが良い。小魚が群れをなしている。

低地と台地の接点に残る斜面林の際をしばらく歩くと、カンスケ井戸(湧水)に到着。ここには鯉がゆったりと泳いでいる。北側にはカンスケ緑地(斜面林)が残り、里やまボランティアの方々が市の委託をうけ、緑地整備作業を行っている、会員の山口さんから説明があ

った。急こう配なのでさぞ苦勞が多いと推察。緑地の脇には階段があり上ると本福寺に着く。ここは幕末の志士吉田松陰が一夜宿泊したことで知られる。

気温がどんどん上がる中今度は明治神社に。見事なイチョウとケヤキの巨木がそびえ木陰に入るとホッとする。ひと時休憩の後、日陰のない住宅街をしばらく歩くと新作地区の斜面林が見えてきた。右側と左側に伸びる緑の景観が素晴らしい。市内では「矢切の斜面林」が知られているが、この辺りも「新作の斜面林」と名付け市



民にアピールしたらよいと思う。斜面林の北端には S 家の竹林がある。手入れも行き届き実に美しい！以前この界限

でドラマの撮影が行われたことがあるそうだ。竹林脇の簡素な安房須神社に立ち寄り、終点の馬橋東市民センターへ到着。

昼食後の午後の部は、今日の振り返りとお知らせ。「宮の下湧水の様なところが市内にまだ残っているのが驚き」「新作の竹林近くに住んでいるが、ここをまったく知らなかった。美しい竹林を見られてよかった」「松戸市がこんなに高低差のある地形とは思わなかった(市外参加者)」などの感想があった。



安房須神社で

今回のツアーでは、うれしいことに小学5年生と母親の親子連れがいた。湧水、斜面林、神社に興味津々で、子供が参加してくれると、案内する側もなんとなく気持ちが和む。

～しぜんのコラム 38～

冬虫夏草のクモタケ

「しぜんのコラム」を担当して 10 年。『トタテグモの扉探し』が、その 1 回目(通信 19 号, 2008. 1. 15)であった。

トタテグモは網を張らないクモ。土の斜面に穴を掘り、穴の中で獲物が近づくのを待つ。穴の入口には扉を付けるからトタテグモ(戸立て蜘蛛)という。

トタテグモにとっての最大の敵は、土の斜面という生息場所を奪う人間による開発であろう。千葉県レッドリストでは、トタテグモは「重要保護生物」として掲載されている。

では、トタテグモにとって人間に次ぐ敵は……もしかするとクモタケという菌類かも知れない。



トタテグモの巣穴の扉から伸びてきたクモタケ 2018.6.24 千駄堀

クモタケは、いわゆる『冬虫夏草』である。トタテグモに感染すると菌糸を伸ばして内蔵を分解して吸収。吸収する栄養分が尽きると、キノコ状の子実体を伸ばす。やがて子実体はトタテグモの扉をこじ開けて地上に現れる。子実体の胞子は、風や雨滴によって周囲に飛び散り、新たな感染の機会を待つ。

トタテグモは絶滅危惧種であるが、その絶滅危惧種に寄生するクモタケも、ある意味、絶滅危惧種である。

(山田純稔)

★松戸のみどり再発見ツアー47 (観察学習会 62)

「よみがえった戸定邸庭園と千葉大学園芸学部の洋風庭園を訪ねる」

当時の写真や史料から発掘と考証を重ね、復元工事が終わった庭園を、今回特別に戸定歴史館職員が解説。江戸から明治、激動の時代を生きた徳川昭武のこころのよりどころとなっていた眺望を鑑賞しましょう

10月14日(日) 9:30~14:00 (小雨実施)

参加費: 500円 (入館料込み、会員 300円、小学生以下無料)

集合: JR松戸駅西口デッキ 9:30 (現地解散)

問い合わせ 090-2935-9444 (高橋)

持ち物: 飲み物、弁当、敷物、雨具

その他 歩きやすい服装でどうぞ